



編集発行
愛の園後援会
和歌山県西牟婁郡上富田町生馬 316-56
TEL 0739-47-1234 ㊦ 649-2103
振替 00920-2-4155

『入居者の方々の思い』

4ユニット

上田 泰子

毎日快適に過ごさせています。願いがかない、やつと昨年十月に愛の園へ入居することができました。個室で洗面所やトイレもあり、毎日有り難いと思っております。

タオルたたみを手伝うのが好きでいつもたたむことを日課としています。

ボランティアで来て下さる方々も優しく接して下さり、お話をすることがとても楽しいです。これからも宜しくお願ひ致します。

7ユニット

吉川 静子

私は三川から朝来に嫁いできました。結婚後若い頃は朝来の婦人会長をしており、県庁へ陳情に行ったこともありました。「負けたらあかん」の精神で頑張りました。

愛の園はご飯がおいしくて、皆さんとおしゃべりをして楽しく過ごしております。何も不足はありません。良い職員さんばかりです。今後とも宜しくお願い致します。

11ユニット

松下 操

朝起きて朝食を食べるとすぐに同じフロアにいる友達に会いに行つて昔話を楽しめます。

また、三階から見える野球場や海がとても綺麗でいつも眺めています。左手に付けている数珠は長女の婿さんが五年くらい前に私の健康を願つて作ってくれました。お風呂の時も外すことはありません。



喫茶ボランティア (熊野高校生)

夏祭り



ユニットで栽培中のトマト

ユニット紹介

『笑顔で 穏やかに』

2ユニットリーダー 藤原 敏子

立秋とは名ばかりでいつまでも残暑が続いています。

2ユニットは、現在入居者様十名、介護スタッフ五名で構成されています。当ユニットでは入居者様に穏やかで、少しでも楽しみのある生活を送って頂ける事を目標としています。

昨年、「サルズベリ」「ハイビスカス」など夏の暑い季節にも強い木を植え、今年家庭菜園で「ミニトマト」を三種類植える事に取り組みました。又今年、「あじさい」の花を増やす計画があり、入居者様と一緒に「あじさい」の挿し木を



ネイルをしていただく様子

行いました。

花や野菜の成長を皆で共有することで精神の安定、意欲の向上、身体機能の維持、コミュニケーションの増進に繋がっています。

実際に野菜や植物が育っていくのを観察して「おやつのない日にはミニトマトを食べるんや」とか「家の庭にはあじさいが咲いているから、外出した時には家に寄って切つて来たい」という入居者

様からの声があり、実際に食べて「おいしい」等季節を感じ、入居者様とスタッフ間で会話が増え「〇〇したい」という意欲の向上が感じられます。

その作業においても個人の身体能力に合わせて無理のない参加をしていただく事で、現在の身体機能の維持、向上にも繋がると考えています。入居者様の笑顔が御家族への安心に繋がればと思っております。



あじさいの挿し木をしています



聖劇 (キャスト集合)

『平和への祈り』

後援会役員 中井 美智子

私は今八十四歳ですが、最近和歌山市内で過ごした子供時代の事をよく思い出します。なかでも忘れられないのは、戦争中、火の海の中を防空頭巾を被つて母と幼い弟と一緒に逃げ惑った思い出です。

昭和二十年のある夏の夜、警戒警報・・・しばらくして空襲警報のサイレンが鳴り響き、それから何時間かは、次々と飛来してくる飛行機から爆弾と焼夷弾が至る所に落とされて和歌山市は火の海となつてしまいました。

私達の居た防空壕の近くにも火の手があたり、慌てて走り出したのですが、爆弾が炸裂する地響きと恐怖で身がすくみ、思う様に走れません。どこまで逃げても死ぬ時は死ぬのだからと、ある広場に立ち止まって、火の海となつていく街を振り向いた時、和歌山城から炎が吹き出し焼け崩れていくのが見えました。母は「ひとつの時代が終わった・・・と呟きました。幸いにも私達は奇跡的に生き延びましたが、この空襲で知人を含め大勢の人が亡くなりました。もう遠い昔になりました。まったこの戦争体験を思い出す度に私は、今のこの平和がいつまでも続きますようにと、心の底から祈ります。

『子供の頃の思い出』

デイサービス利用者 小倉宮子

二、十七歳の間、私は徳島市街で育ちました。母とは年に二、三回しか会えず、知り合いの御爺さんの家に預けられました。戦争が始まる前、この家は製糸工場の傍で屋台を営んでおり、洋食焼や餡巻き等を作る場所を御爺さんの膝の上で眺めていた事を覚えています。近くに練兵場があり小学校への通学時には上官に怒られている兵隊さんの姿を見る事もよくありました。

ある日戦地に赴く兵隊さんが電報を打った事が憲兵に見つかり体罰を受けているところを遭遇、子供心にも「そ

んな事で、可哀そうに」と思った事があります。日曜日には、揃って白いハンカチにパンを包んで嬉しそうに出かける兵隊さん達の姿も印象に残っています。その後戦禍が強くなり私が通っていた小学校も軍の統治下となり、家族と共に疎開。学校が休みの日にはリュックを背負って田舎の方に芋や南京を買いに走り回る日々でした。

ある時は「もう売れる芋は無い」と言われ畑の残ったクズ芋を貰ったり、百姓の人に蒸かし芋を「食べよし」と手渡されたり、お金があっても買える物が無いような



お餅つき



運動会

時代でした。今の時代は平和になって良い時代です。



不在者投票(参院選)

今年二月から愛の園でショートステイを利用しています。有田郡清水町で生まれ、若い頃は土建業をしており旧園が建つ時に、土地造成の仕事で携わった事があります。その頃は信者さんしか入れなくて聞いていたけど今回、ケアマネさんのお勧め施設だったので利用してみました。

昨年病気の為、人工肛門造設し、退院後から介護サービスを利用しはじめたから、色々な施設を利用して、一番良い所を探している最中です。人が良いと言ったら一回は行って試してみらな分らんし(笑) 幾つか施設へ行ったけど全て良い所はなかなか無いなあ。この悪い所は、リハビリが無い事。そして孤独になる所。何もする事ないから一日寝てるしか無いわ。

良い所は、部屋の中にトイレが有るから近い事。お風呂が座ったまま乗込湯船に入れる事。職員が美人揃いな所。ええか！これは大事な事やで(笑) リハビリ機具が充実したリハビリしながら友達作りも出来るから、孤独も解消されるのに。残念や。今後は健康管理に注意し体力作りに励んでなるべく人の世話にならんように、自分で出来る事は出来る限り自分でする事をモットーに楽しく生きてい。

愛の園後援会の皆様方には、いつも御支援・御協力頂き誠に有り難うございます。 社会福祉法人神愛会には設備室という部署がございます。設備室は二名の職員が配属されており、今年、永年に渡り活躍された塩地前主任が定年退職され、四月から新戦力の松前さんが加わりました。 設備室は裏方の業務が主で、防火管理・施設維持管理等に携わっており、毎年二回義務付けられている防災訓練(昼間・夜間)を計画・実施し、上富田消防署様の立会・ご指導のもと職員に出来る限り防災意識、火災時の消火避難技術を身につけてもらうよう取り組んでおります。 新施設もはや十年目を迎え、建物・設備機器・

空調機器・電化製品等経年により不具合が多々発生し、出来る限り迅速な対応で入居者様の生活に支障がないよう、最善を尽くす事を心がけております。 又、衛生管理者として登録され、職員に安全に業務を行ってもらい、要望に出来る限り答えられるよう、働きやすい職場環境を作るため、危険にも目を光らせ日々もつと努力を重ねていきます。 前主任からご指導頂いたバトンを受け取り、新戦力の松前さんにはしっかりと渡し、受け継いでもらうため、社会福祉法人神愛会・愛の園のために全力で頑張っております。 後援会の皆様方、今後とも愛の園をどうぞ宜しくお願い致します。



愛の園後援会事務局
0739
47-1234 (堀)

『愛の園の良い所・悪い所』

ショートステイ利用者 小松重成

『設備室のご紹介』

設備室主任 小倉直樹

会員状況		会員納入状況			
地区	2015年度 会員数	地区	2014年度 納入人数	2015年度 納入人数	前年比
田辺市	172	田辺市	70	64	-6
上富田町	167	上富田町	71	78	+7
白浜町	24	白浜町	5	8	+3
県内他市町村	21	県内他市町村	4	5	+1
県外	45	県外	23	26	+3
合計	429	合計	173	181	8

2015年度愛の園後援会 会計報告

愛の園後援会 貸借対照表 (2016/3/31)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
現金	0	前期繰越金	2,372,980
郵便振替貯金	0	当期剰余金	768,456
普通預金	3,141,436		
当期欠損金	0		
計	3,141,436	計	3,141,436

愛の園後援会 収支計算書 (2015/4/1 - 2016/3/31)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
前期より繰越	2,372,980	後援費	51,971
会費	959,310	印刷費	77,760
雑収入	386	通信費	47,917
(収入小計)	959,696	払込手数料	13,160
		雑費	432
		(支出小計)	191,240
		次年度へ繰越	3,141,436
計	3,332,676	計	3,332,676

役員	
会長	上羽 寛
副会長	玉置 貴彦
会計監査	中井美智子
幹事	笠松 孝司
田辺市	谷中順次郎
上富田町	平岩チホコ
事務局	堀 美都子
	松井 孝恵
	寺前 裕章

編集後記

残暑が続いていますが、会員の皆様にはお元氣でお過ごしのこととお慶び申し上げます。 「後援会だより」は今回、皆様のお陰で第35号の発行ができました。好評でしたので今後続けて行きたいと思っております。 目指すは第50号！会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。 さて、平成二十八年の後援費の使途は、昨年度の後援費とを合わせて、軽自動車の助手席シートが九十度に戻り、楽に降り降り出来るタイプの車種を九月に行われる行事の「一日我が家」で贈呈式を行う予定です。次年度の「後援会だより」第36号で贈呈式の写真と共にお知らせしたいと思います。